

連續的作業を中心としての手技

及 川 ふ み

題目が少しむづかしそうですが何とつけたならよいか適當なものも見出されませんので、こんなことにしました。さて幼稚園の手技の種類も粘土、紙仕事、きびがら、つなぎもの、縫とり、大工仕事、など、數へあげれば數々あります。又只今私共の見つけ得ないよりよい手技も數多くかくれてゐる事でせう。これらの一々の手技を、きれぎれに保育の材料としてとりいれてその週その週に斷片的にやつてゆくのも勿論一つの方法であり、又現在多くはこの方法によつて行はれてゐるのではないのでせうか。入園後日も浅い幼児は、粘土をするにしても、生れてはじめて粘土をいぢつて見るので、自分の思ふほどの大きさにちぎる事さへも容易ではない。又鉄を使ふにしても今まで家庭ではあぶない／＼で手にさへ觸れたこともないのですから、薄い紙を切る事も意のままににならないのであります。こんな時期にはある日の粘土はあだんどばかりに終る事もありませう、又圓くまるめる事から少し進んで長くのばすことになる日もありませう。それからのばした細長いものをくる／＼渦卷にして遊ぶこともありませう、こんな

にしてゐるうちに、ある日は電車をつくり出し、汽車をこしらへ、お人形をこしらへる様になつて来る。こんなにして幼児の製作の力が進んで来ると、今までの様に一つ／＼切れ／＼のものでは面白くない。ある時は八百屋遊びを中心に、ある時はおもちゃ、ある時は動物園、植物園といふ様に一つのみとまつた目的に向つて製作する。今日の粘土は動物園の動物を造るのである。今日の紙仕事はあの猿の小屋を造るのである。動物園の樹をこしらへるのである。一つ／＼がどれも動物園の何々になるのだといふ事になる。

一つの動物園をつくるのに、粘土製作は勿論、きりがみもあり、自由畫あり、ぬりゑありといふ風の一つものをつくるにあたり、手技のあらゆるものをする事もあり、又粘土と他の一二に止る事もあり、又ある時は紙仕事にぬり畫ばかりにとどまる事もありませう。

近い數年のこの方我がお茶の水の小學校でも、一二年低學年では同科教授法として作業中心の方法をとつておられる様でありますが、とにかくこの方は生徒が幼稚園時代よりもずつと發達した人たちでする事もすべて大げさで、深くうちこんだところまで出來て居る事と、私は大層うらやましく思つて居るのであります。

小學校のそれにくらべては誠にものたりないのではありますが、こゝに私共の立場としては出來上つたものは、たわいないものにしてる幼児の興味をつゞけさせるのに保姆自身先づその仕事にやみがたい興

味をもつてやらねばならないのであります。先生があれこれといかにも面白そうにしてゐるので、幼児もつひつりこまれて渦巻の中にまきこまれるといふ様に、はじめのうちは保姆の方から積極的體度に出るといふ事も許さるべき一つのみちゆきであります。

さて、これらの題材は、先づ四季の季節を思ひ、又年中行事を思ひ浮べ、幼児の家庭生活、社會生活、幼稚園生活にふれて最も手やすい材料を選ばねばなりません。

こんなにして手技をとり入れてゆけば、幼児の製作の興味も深くなりて進むのは勿論であります、又他方においては、私共保姆の方で手技の材料がなくてこまる思案に暮れるといふ事はなく、あれもこれもと手のまわらないほど材料がつぎ／＼と幼児と共に思ひうかぶことでせう。

私の只今受持つてゐる川の組は、この四月入園した小さい組です。來る二十二日明治神宮外苑運動場で、當校では附屬校園全部運動會をすることになつて、何となく運動氣分が漲つてゐます、一週間ばかり連續的に運動會を中心に作業をした實際を紹介いたしませう。(口繪參照)

一、會場を飾る國旗づくり

直徑二寸五分の日の丸を一人あて四枚さる。

圓は鉛筆で形をとつておいたものをさる。多少凸凹になつてゐるものもあるが、大體上手に切れた。

模造紙の白いのにはる、會場の中心に竹を立てやつて見ると、八十枚旗があるので、早く切れた人に

は二枚位追加してきつてもらつた。

二、小旗つくり

旗拾ひの旗、應援の旗など。

色模造紙で一寸四分位に幼児にきらせて、ヒゴを旗竿にして、各自に糊ではらせた。一人の幼児が三拾本位もつくつた。少い人でも拾本位は造つた。

三、粘土で人造り。

簡單な人であるけれども幾つも幾つものこしらへた。ある幼児は、一人で競技する人も、觀覽席からみてゐる人もこしらへた。

出來たての人々を、繩ひきをさせたり、マラソンに、ダンスに數種の競技に分けて手に手に旗をもたせた。

四、見物人をこしらへた。

實習科の人たちの手で、受付の小屋や、救護班も出來れば、立派な入口のアーチも出來た。

樂隊に合わせて皆で遊戯をした。

五、其の組の人たちにくばる入場券を造る。

六、自由畫で運動會をかく。